



2022年 8月1日

日本鉄道労働組合連合会

JR西日本連合第31回定期大会

組織強化に向け組合員に寄り添う運動を展開！

JR西日本連合は7月27日、大阪市内において第31回定期大会を開催した。執行部・代議員をはじめ総勢約150名出席のもと、2022年度の運動方針を満場一致で決定し、当面する課題の解決にむけ、すべての単組が連携し、全組合員が総力をあげて運動を展開していく決意を固め合った。



代表挨拶を行うJR西連合 上村議長（左）、
来賓挨拶を行うJR連合 荻山会長（右）

冒頭挨拶で上村良成議長（JR西労組中央執行委員長）は、①安全の確立、②働きがいの追求、③期末手当交渉・2023春季生活闘争の取り組み、④政治・政策活動について所信を述べるとともに、「社会変容が急速に進展する今こそ、組合員に寄り添った力強い運動を展開し、求心力を高めながら、より強固な組織を構築していこう」と訴えた。

来賓としてJR西日本の長谷川一明社長、交運共済西日本事業本部の里内義次本部長、JR連合から荻山市朗会長、鎗光俊勝労働政策局長が出席した。長谷川社長は挨拶で「長引くコロナ禍の影響により依然厳しい状況は続くが、グループ一丸となって黒字達成を

目指していく。一層のご尽力を賜りたい」と述べた。続いて荻山会長は、長期化するコロナ禍により疲弊するJR産業や増加する離職者等の現状に言及し、サービス連合・航空連合と展開する3産別共同行動の内容に触れたうえで、①産業政策、②労働政策、③組織強化について所信を述べるとともに、JR連



活動経過を報告するJR西連合 石田原事務局次長（左）、
運動方針を提起するJR西連合 白壁事務局次長（右）

合結成30年の節目となる本年を次代の起点に据え、JR産業の更なる発展にむけて組合員の負託に応えるべく、責任ある運動を力強く推進していく決意を述べた。

議事では、石田原潔事務局次長による2021年度活動経過報告の後、白壁靖子事務局次長より2022年度運動方針が提起された。その後、4名の代議員から「安全」「北陸新幹線敦賀延伸」「業務課題」「政治・政策活動」「2022春季生活闘争の総括」等について発言があり、執行部答弁及び総括答弁を経てすべての議案が満場一致で採択された。最後に上村議長が決意を新たに、団結ガンバローで定期大会を締めくくった。

